

全国のみなさんに  
支えられながら

# ふくしま 地域と共にこれからも

協働のうから

保存版 vol.6  
2018年4月発行



生活協同組合  
コープふくしま

〒960-8566 福島市森合字清水7番地 コープmartいずみ2F  
発行人/今野 順夫 管理部 TEL 024-557-1125 FAX 024-557-5359  
コープふくしまホームページ <http://www.fukushima.coop/>

原発事故に伴う避難区域が解除され、地域でのふるさと再生に向けた動きが進んでいる一方で、たくさんの方が未だに避難生活を送っています。

事故後の処理も思うように進まず、さまざまな問題の解決にはまだまだ時間を要する現状です。

2017年度も全国の皆さまに暖かいご支援をいただきながら、コープふくしまでは『忘れない、風化させない活動』『被災者に寄り添う活動』をすすめることができました。心より感謝申し上げます。

## 被災地視察

### 忘れない、風化させない取り組み

2017年度も全国の多くの生協からたくさんの方々に福島においていただきました。また、学習会や報告会にもお招きいただき、福島の現状について報告しました。2017年度は70回、この7年間で367回を数えました。

震災からの復興、原発事故の収束には長い年月が必要だと言われています。次の世代を担う子どもたちに現実を正しく伝えることを目的に、親子で参加する被災地視察の企画もありました。



## 夜の森さくらプロジェクトを応援

### さくら苗木の植樹をお手伝い

震災、原発事故の風化を防ぎ、復興のシンボル、避難者の心のよりどころとしたいとする富岡町の「夜の森さくらプロジェクト」。コープふくしまでは2017年度も全国生協との関係で桜苗木の植樹を呼びかけました。各地で植樹式が行われ、開花の便りも届いています。



## 避難住民に寄り添う活動

仮設住宅や復興公営住宅の集会所で定期的に「ふれあいサロン」を開催し、全国の生協から送っていただいたお菓子を食べながら、楽しいひとときを過ごしました。また、被災地視察の際にふれあいサロンに参加する生協もあるなど、継続した活動が喜ばれています。



## 甲状腺検査について理解を深めようと学習会を始めました。

東京電力福島第一原子力発電所の事故から7年が経過しました。甲状腺検査に関連して、県内外から心配や不安の声があります。事故当時の放射能の学習会と同様、漠然とした心配や不安から理性的に捉える事が必要との思いで、学習会を計画することになりました。

県立医科大学放射線医学県民健康管理センターから講師を招いて、まずは組合員理事中心に1回目の学習会を実施しました。2018年度は、組合員活動を通し各地域で学習会を計画します。



## 2017年度「畑の学校」開校しました。

昨年に引き続き、猪苗代町の大豆畑で種まき、草取り、収穫を体験し、1月には味噌作りをして、大豆が味噌になるまでを学びました。地産地消、フードマイレージ運動のひとつとしてこれからも続けていきます。



## 震災後の取り組みを本にしました。

東日本大震災・福島第一原発事故から6年を機に、日本生協連を始めとする全国のみなさんのご支援をいただきながら、これまでコープふくしまが取り組んできたことをまとめました。

総勢195人の言葉で被災直後の奮闘や思いが綴られている記録本です。



※お問い合わせは、  
コープふくしま ネットワーク推進室 TEL.024-557-1340 まで

## 消費者支援功労者表彰(内閣府特命担当大臣表彰)を受けました。

消費者利益の擁護・増進に対する表彰制度として、消費者庁が実施する「消費者支援功労者表彰」(内閣府特命担当大臣表彰)を受けました。ふくしま大豆の会の取り組み、くらしの助け合いの会の活動、放射能問題を正しく理解する学習会等の取り組みが評価されてのことです。

これらの取り組みを支えていただきました全ての皆様に心より感謝申し上げます。



## 全国からの継続したご支援

### 「福島応援隊」の取り組み 夏ギフト&冬ギフト

福島の主力産業のひとつである夏の桃ギフト・冬のりんごギフトを、適正価格で買い支えていただく「福島応援隊」の取り組みは、17年度もJAなどの協同組合間協同で行い、日本全国から注文をいただきました。毎年、前年を超える大きな応援をいただいています。



### ひろしま「お好み焼き隊」

17年度に開設された葛尾村の復興公営住宅でも、「お好み焼き」が振る舞われ、新しい地域のコミュニケーション形成の一助にもなりました。



### がんばろうふくしま! 農産品応援ボックス

福島県の野菜や果物をセットにした「がんばろうふくしま! 農産品応援ボックス」と「果物応援ボックス」を今年度も東北6県の宅配で継続して展開され、約8万2千ケースをご利用いただきました。



### 大分名物「とりめし」「だんご汁」

昨年に引き続き、3月と8月にコープおおいの「とりめし」と「だんご汁」の炊き出しが仮設住宅で行われ、皆さんに喜ばれました。



## つながりカレンダー

コープみえの皆さんの応援メッセージがぎゅっと詰まった「つながりカレンダー」をいただきました。今回で6回目。毎日目にするカレンダーの、暖かい絵とメッセージに心が和み、そして励まされています。



## ご当地のお菓子など

ご当地の名菓や手芸・工作の材料など、全国の生協等からご支援をいただきました。

ふれあいサロンの度に、仮設の皆さんに喜んでいただいています。同封されてくるメッセージカードやおたよりにも心癒されています。



もちつきも行われ笑顔が▶

# 生協にできること。ふくしまで暮らしていくために

## 事業を通して暮らしを応援

困ったときはお互い様。避難を余儀なくされた人たちが、生業を奪われた人たちが、そして福島に暮らすみんなが、明日に向かって踏み出せるように！ コープが応援します。

### 帰還を支援



避難指示が解除された市町村と地域で、共同購入による宅配を展開しています。また、復興公営住宅を巡回する「せいきょう便」のコースを新設し、帰還、移住した人々の生活を支援する取り組みを進めています。

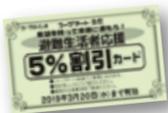
### いきいきコープ復興応援デー



「3月11日を忘れない」「復興を祈念して」、毎月11日にコープ各店で開催。いごという時にも役立つ食品等のおすすめも継続しています。

### 避難生活者応援5%割引カード

コープ各店では、避難を余儀なくされ、仮設住宅などで生活されている方を対象に「5%割引カード」を発行しています。



### 浜のかあちゃん調理教室



今年度も相馬双葉漁協の婦人部との共催で、調理教室を開催し、浜のかあちゃんの魚料理を学びました。福島の漁業は未だ試験操業が続いています。コープふくしまの店舗では、モニタリング調査で安全が確かめられた相馬産の魚を積極的に取り扱っています。

## ママと子どもたちの元気を応援

未来を担う子どもたちが、のびのび元気に大きくなるように。ママがひとりぼっちにならないように。

### アウトドアピザ作り



生地を材料を入れたペットボトルをおなかに抱いて鬼ごっこをすると、子どもたちの体温で発酵が促進されます。野外をおもいっきり走りまわって、粉から生地を作る過程での変化にわくわくしながら賑やかに美味しく頂きました。

▲大好きなウインターいっぱい  
のせやあつ。

### こどもキッチンシリーズ



▲子どもたちだけのお買い物にワクワク。

今年度も2つのキッチンシリーズを行いました。「お買い物キッチン」では、子どもたちが実際にお店で買い物をし、ミッションの「お好み焼き作り」をしました。「なぞなぞキッチン」では、牛乳ができるまでの行程を学び、ペットボトルを使ってバター作りをしました。

### ハートフルサッカー



今年度は、津波被災地の子どもたちを対象に、浦和レッズハートフルサッカー in 新地を、新地町の後援で開催しました。あいにくの雨で体育館での開催となりましたが、子どもたちの元気な声と輝く笑顔が満ちあふれていました。

## 原発事故・放射線問題への取り組み

安心して福島で暮らしていくために、これからも調査や学習会を継続していきます。

### 2017年度 食事調査の結果

### 2014年度以降、2017年度までの4年間で検出された家庭はありません。

日本生協連商品検査センターにご協力をいただき、陰膳方式により実際の食事に含まれる放射性物質の測定を2011年度から7年間継続しています。2017年度は2017年7月から翌年2月にかけて100家庭の食事を測定しました。2011年度から2013年度までは下限値を超える値が散見されましたが、検出割合、放射性セシウムは年度を追うごと減少。2014年度以降の4年間で下限値(1ベクレル/kg)を超える値は出ていません。

7年間で延べ900家庭を調査した結果からは、下限値(1ベクレル/kg)以上の放射性セシウムを含む食事を、継続して取り続けている可能性は極めて低いと想定されます。



▲ゲルマニウム半導体検出器

### かげせん ※「陰膳方式」とは?

家族人数より1人分余計に食事を作り、それを測定する検査方法。本調査では2日分(6食+おやつや飲料なども含む)を保存して検査センターに送り、検査センターにおいてミキサーで均一に混ぜ込んだものを検査試料として測定します。



検査機関へ

2日間  
6食分

測定場所	日本生協同組合連合会 商品検査センター
測定機器	ゲルマニウム半導体検出器
測定時間	1検体あたり測定時間は約50,000秒(約14時間)
検出限界値	1ベクレル/kg
測定方法	陰膳方式*

### カリウム40を知っていますか?

- ・通常の食材に含まれる天然の放射性物質です。
- ・成人男性の体内に平均4000ベクレルくらいあるといわれています。
- ・今回の調査でも今まで同様に検出されています。

## 回数を重ねることで安全・安心を確認

### 食事調査に参加された方からの声

昨年夏に参加しましたが今回は季節を変えて冬。「安全」を前提として生活していますが、調査することで「安心」したいと思います。年数が経ったからよしではなく、調査は続けてほしいと思います。県外の方々から「数値」を見て福島県産は大丈夫と思ってもらえると思うから。

毎回とても手間と時間がかかる作業をしてくださり、またその結果を正確に分かりやすく教えて頂いている事、本当にありがたく感謝の気持ちでいっぱいです。子どもも3人おりますので、まだまだ不安がゼロになるという事はありませんが、こうして調べていただいている事で安心に繋がっています。今後もぜひ続けてほしいと思います。

食材に関しては、地元の物が新鮮で美味しいと思っておりますし、生産者も応援したくて選んでいます。摂取量調査の結果・情報が、福島の風評払拭につながる事になると良いと思います。

## WBC(ホールボディカウンタ)による内部被ばく測定と組み合わせた取り組み

コープふくしまでは、食事調査とWBC(ホールボディカウンタ)による内部被ばく測定を組み合わせることで、より理解を深める取り組みをすすめています。

### <測定の進め方>

測定場所	福島医療生活協同組合 わたり病院
測定機器	立位型WBC(ホールボディカウンタ)測定器
検出限界値	セシウム134 140ベクレル/body セシウム137 180ベクレル/body

### ●測定の結果

これまで、検出限界値以上のセシウムが検出された方はいませんでした。

## 食事調査のついで

食事調査に参加した(または参加する)組合員と、検査に携わった検査センターの職員との学習・交流会を開催しています。放射能に対する疑問や日頃不安に思っていることなども話し合われました。



## 日本生協連商品検査センター訪問

食事調査に参加した親子が、埼玉県にある日本生協連の検査センターを訪問し、食物に含まれる放射性物質の検査などを体験しました。



## 陰膳方式放射線調査結果(2018年3月7日発表)

(2017年度の100家庭を調査)

